



トリアルプロジェクトのインプレッサワゴンにスタイル、チューニングともにアグレッシブという言葉に尽きる。



AERO

予測その17

勇気を出して GT・DTMルックに 挑戦だ

別にワゴンのスタイリングに課したことはないんだけど、今年のエアロのスタイリングのカギを握っているのは、実はフルキットでもホイールでもなくて、やっぱりDTM風のオバフェン仕様だと思っね。

ところで、DTM仕様を知らない人の為に、DTM仕様とはいったいかなるものなのかをチラッとだけ説明しておくけど、基本的にはフロントリップからフェンダーアーチとサイドアンダーを通過して、リアのアンダーリップにかけて、ポリウレタンあるエアロがまわり込む様なスタイリングを「DTM風」と呼んでいっているんだ。

実は去年の初めの頃もR32とかスーブラなんかで、DTMルックというのが少し流行ったけど、あれは単品のエアロパーツと言うよりも、コンプリートのなスタイリングで処理されたものが多くて、イマイチ汎用性というやつが足りなかった。

でも、今年「イキ」そうなDTM風オバフェン仕様というのは、さらに汎用性が進んだ形にまとまりそう、サイドステップから一歩突っ込んだサイドメイクとしては、確実に流行の中心になるのは間違いないだ。

なにしろ規制緩和が進んで、車検におけるエアロパーツの取り付け基準が日に日に緩く(?)なっている現在、やっぱり一世を風靡したオバフェンダーが復活しないわけがないよね。でも、オバフェンダーの場



DTMルックの火付け役といったら、やはりヴェルデ J.B.S. (0426 85 0763) のニューアコードワゴンに、オバフェンスタイルでかなり個性的。

合、昔はただ太いタイヤをフチかましたいだけのために取りつけていた様なモンだけど、今では立派なスタイリングファクター。プリフェン加工にして愛車をワイドにするのは勇気がいるけど、オバフェンならどんなクルマにつけても不思議と決まるからね。



これはラリーをやっているクルマ、スポンサー関係のステッカーが並ぶわけですが、まあ、ここまでは言わないけれど...

STECKER

予測その19

品よく着飾れば、 レーサーチック!

エアロのリリースが少ない車種や、レーシングカーのようにきめたい人には、「ステッカーチューン」がおススメ。ひとつ、自分が装着してもいいパーツのメーカーのステッカーをベッタベタと貼ってあるクルマが目立っていたが、最近では減少傾向にあるようだ。これ

今年のリアまわりの演出としてはリアウイングはもちろん装着させる。が、それに加えてリアアンダースポイラーへのこだわりもあると思う。最近の傾向としてリアビューの演出もフロントと同じく、凝りに凝っているパターンが

ファースト (082 274 7155) がリリースするモアコラージュの180SXのリアビュー。リアアンダーのディフューザーがスタイルをグッと引き締める。



AERO

予測その18

リアのアンダースポイラー、 主流はバットマン ディフューザータイプだ

多く見られる。フロント以上にリアの方が重要だという意見もあるくらいだ。なんといってもクルマを運転しているときに目につくのは前方を走るクルマのテール。だから、リアは走っているときにカッコよく見えるものと言いつつ表わされるんじゃないかな。

最近のリアバンパースポイラーの形状にはバットマンディフューザータイプが多く採用されるようになった。このタイプは確かに空力という点からも、かなりいい効果を生み出してくれるわけなんだけど、そんなワンチクよりも魅力的なのは、この形状が作り出すバンパースポイラーのカッコよさだ。

くことは少ない。やっぱりクルマを運転しているときの着座位置が一番よく見える角度だ。そうなる、このスポイラーは走っているときにカッコよく見えるためのモノであるというのも間違いない。これからのバンパースポイラーは、バットマンディフューザータイプでキマリだな。



ヴェイルサイド (0298 38 1104) のニューウェポン、コンパクトシリーズのZにもバットマンタイプのディフューザーを装着。

CARisma

Transform Car Magazine

からのキーワードは、下品に見えるないスチールチューンだ。ちまちましに貼るクルマみたいで、カッコいいじゃないと言われるようなクルマを自指したい。そして、ベタベタと貼りすぎずツボを抑えていることも大切。そうそう、チマタではCARismaステッカーもどうやら大人気とかいう噂だ。非売品だから、入手方法はWeb site (http://www.carisma.jp) に参加するか、読者投稿ページに参加するか、なのだ!

これが噂のカーリスマステッカー。手に入れるために、編集部に行きかかるといって連絡もある。ついでに...



**カッコイでしょ
(自分ではそう思うけど)!?
いえいえなかなかです**

**山内 亮さん(22歳)
マークIIワゴン**

一見ロコバナナのデモカーみたいに見える。山内さんのマークIIワゴン。自作ステッカーが追加される。趣味は釣り、パチンコ、それにクルマとか。「どこへ行くにもこのクルマと一緒にです」とのことだ。

- 吸気系: ロコバナナファンキーマフラー ●足回り: カヤバニューSRスペシャル、RSR ●タイヤ&ホイール: ロコバナナスリッター7Jx16、ヨコハマグランプリUM5(205-50)

**入江 誠さん(23歳)
カルディア**

エアウォーカーのスポイラー&グリルとGスクエアのアイライナーニッシュで顔つきを引き締めたカルディア。オーナーの入江さんは山口に住む山本さんと遠距離恋愛中とか。うーん、若いって素晴らしい。

- 吸気系: HKSエアクリーター ●マフラー: TRD ●足回り: WAY DO ●タイヤ&ホイール: ビレリP ZERO(205-45)、ポイドサイドウィンダー(7-17) ●エアロパーツ: フロントグリル&フロントスポイラー(エアウォーカー)、アイライナーニッシュ(Gスクエア) ●内装: ステアリング(レカラ)、オーディオ(カロッツェリア)



**ただいま遠距離恋愛中、
彼女はこの撮影のために
駆けつけてくれました**

**控えめなドレスアップが
大人って感じかな**



**川端 寿吉さん(28歳)
フェアレディZ**

外装はホイールをワークのレザックスに交換のみの川端さんだが、その控えめなドレスアップが、大人のクルマという雰囲気を醸し出しているなあ。

- タイヤ&ホイール: ビレリP700Z(F235/45-17、R255/40-17)、ワークレザックスロー ●内装: デッキ(サウンドモニター)、スピーカー(ボストン)、アンプ(ナカミチ)、レカロDS-Vx2

**マツダスピードの
エアロで決めたプレツは
目立ちだ**

**中野 典之さん(20歳)
ユーノスプレツ**

どちらかというとマイナー車の部類に入るプレツをマツダスピードのフルエアロで決めてるんだから、目立たないと言う方がおかしいくらい。今後は、ホワイトメーターと足回りもマツダスピード製にしたいそうだ。

- 吸気系: マツダスピードエアフィルター ●排気系: マツダスピードスポーツサウンドマフラー ●タイヤ&ホイール: マツダスピードMS-01、205/50R-15 ●エアロパーツ: マツダスピードフルキット(フロント、サイド、リアウイング) ●内装: カロッツェリアナビゲーション



**去年の3月に購入、それにしても
セブンは最高ですねー**

**関原 秀一さん(27歳)
FD3S**

FDサイコーという関原さん。ボーナスは全部クルマにとられてメッチャピンボケ。ローンもクルマとパーツで大変だけど、最近これが快感に変わってきたとか。今後、ナイトのデュアルヘッドライトやレカロシート、エアロミラー等を入れる予定だとか。

- マフラー: RE電音ドルフィン ●足回り: kg/mダウンサス ●タイヤ&ホイール: 前AW-7(F17x8J、R17x9J)、ヨコハマM5(F235/45-17、R255/40-17) ●エアロパーツ: フロントリップ(ポーター)、サイドスカート(ナイトスポーツ) ●内装: ステアリング&シフトノブ(ナルディ) ●費用: 約100万円



**ゼロヨン仕様のバルサー、これからもバリバリに
チューニングしていく予定あり**

**平野 一幸さん(20歳)
バルサー**

今後は、インタークーラー前置き、車高調、カールシュミット鍛造ピストン、ボアアップ等、ハードにチューンナップしていく予定だそうだ。

- 吸気系: フロアフローオフ(リブ、Maj)ワーグリーナー ●クラッチ: OSは特ツインプレート ●電子パーツ: オリジナルコンピューター(SSクリエイター)、ツインS&C ●マフラー: JAMマフラー 左出しスペシャル ●ブレーキ: エントレス ●足回り: F4kg、R8kg、RSRダウンスラス ●タイヤ&ホイール: SSR、F/M7(205/50)、R/M5(205/50) ●内装: トラストブースト計、ウルトラターボタイマー、ケンウッドオーディオ ●費用: 約150万円



**フルエアロで
キメたスープラも、
これで2台めだあ**

**浅井 昌章さん(24歳)
スープラ**

1台目はモニターポだったけれど、2台目はターボ車にしたという浅井さん。エアロは1台目からずっとヴェイルサイドを装着。それにしても目立ってるよね。R23をカッ飛んでるのでよろしくとのことだ。

- 吸気系: HKSパワーフロー、ブリッツスーパーフロー ●マフラー: HKSスーパーダッガー ●ブレーキ: プロテックス ●タイヤ&ホイール: ボテンザRE710改(F235/45、R265/40)、ヴェイルサイドアンドジュレーションV(17インチ) ●エアロパーツ: ヴェイルサイドリップスポイラー、リアウイング、サイドステップ、リアアンダー、輸出用テールランプ ●内装: 5次元ステアリング、カロッツェリアコンボ、トラストブーストメーター、レカロSR II プレメム、ヴェイルサイド8速シフトノブ



**平野君とは同じ
ゼロヨン仲間。小さい
クルマだけれど
頑張っているぞ**

**植木 茂治さん(20歳)
CR-X SIR**

これからは、無限のフルキットと足回りを組み直したいという植木さん。またエンジンのボアアップも考えているとか。彼女募集中ののだ。

- 吸気系: スプーンエアクリーター(フィルター) ●クラッチ: GABメタルクラッチディスク、カバー、C&Cイックシフト ●電子パーツ: データシステムVTECコントロール ●排気系: RSRタコ足、RS-Rタコ足、RS-Rマフラー(90年) ●ブレーキ: エントレスパッド、カストロールDOT5 ●足回り: ボテンザRE710(195/50-15)、スバルCON-1改 ●内装: モモステヴェローチェレシニング、カロッツェリア、カーボンシフトノブ、サベル4点ベルト、レカロCSR II



**秋田 俊昭さん(26歳)
マークII グランデG3.0**

以前、車高を落とすだけで会社で怒られたことがあるという秋田さん。それにしてもエアロから内装まで、本当によくトランスフォームしているよね。

- 吸気系: UNIフィルター ●電子パーツ: オベルセキュリティー&エンジンスターター、REMIC600R、ピボットAGM、M5 AFF ●排気系: タナベG/Pワーメダリオン ●足回り: タナベスーパーダウンスラス、フレセデロ ●タイヤ&ホイール: WORK REZAX、ミシュランXGT V(F215/45-17、R235/45-17) ●エアロパーツ: トライアルフロントスポイラー、リアウイング、Gブランドフロントグリル、アイライナーニッシュ、M/C後サイドステップ&リアスポイラー(純正) ●内装: モモエレガンススポーツ、SONY+ALPINE+SHARP TV+ユビテルVTR、レカロDSシリーズ、カロッツェリア ●その他: オレンジコーナーマーカー、リアサイドマーカー、ゴルフ専用ボンネットスポイラー、シュニッツァデコライン、フロントグリルエンブレム、MODESS、ロンドン ●費用: 200万円以上

**ストリートから街乗り、
はては通勤の足にまで
使っているのだ**



大胆なのにさりげない。 クルマを完璧なフォルムに仕上げ ハイクオリティエアロ

アリゲーター／浜畑さん

昨年、「BOMEX」に
って、たいへん充実した1年だ
ったといえるだろう。パリエ
ションの充実、新製品の開発
など、まさに怒涛の年といえる
。そして今年度、もしくは'95-'96
年に駆けてのイチ押しパーツは、
何といってもフロント関係のス
ポイラーであるといえる。

いくつか紹介すると、R33・
GTS-1/ビックマウスタイ
プフロントバンパスポイラー
(定価6万2000円)、JZA
80/フロントアンダースポイラ
ータイプ2(定価3万2000
円)、SW20/フロントアン
ダースポイラータイプ2(価
格2万9000円)などがある。
GTS-1用のビックマウス
タイプは、ハードチューンまで
対応できるよう冷却効果を第一
に考え、インテークを大きくあ
けた。さらに負圧がかかるよう
スポイラーサイドにアウトレッ
トを設定。インテークの大きく
開いたスポイラーを装着するこ
とにより、ワイド感が強調され、
フロント廻りをよりスポーティ
ーに演出する。80スーブラ用の
フロントアンダースポイラー
は、スポイラー本来の目的であ
るダウンフォースの働きを促進
させることにもちろん、フロン
トアンダースポイラーというス
モールサイズのパーツに更なる
機能を求め、直進安定性の向上
と空気の流動を整えることを目



的として、両サイドに翼端板を
設けたことにより、スタイリッ
シュ仕上げになった。そして、
MR2用のフロントアンダース
ポイラーは、最大の特徴である
両サイドの翼端板により空気の
流動を整え、直進安定性を向上
させるように開発されている。
この他にも今後は多彩なパリエ
ーション、豊富な対応車種、ス
タイリッシュなデザインを高い
次元で両立したエアロパーツを
展開していきたい。

'95年はやっぱりゼルダー。これにひきまわす...。 '96年に関してはセダンとかワゴンの開発に 力を入れていくよ！

トライアル・プロジェクト／牧原社長

ドレスアップの点で考える
と、'95年はやはり東京オートサ
ロンで華々しくデビューした3
本スポークの「ゼルダ」。これ
が一番大きな存在だった。やは
り時代は3本スポーク。ゼルダ
の登場以降、ホイールメーカー
各社が競ってこのデザインで勝
負をかけてきた事でもわかると
おり、これがホイールデザイン
における台風の目だった事は間
違いないだろう。

それからエアロに関しては、
ウチではR32、インプレッサと、
結構いろんなクルマに力を入れ
てきた。特にインプレッサのオ
ーバーフェンダー仕様は、いろ
んな意味でインパクトがあつた
んじゃないかな。まあ、こ
とエアロに関しては、去年の後
半に車検制度が変わったことも
あり、今後はデザインの自由度
がある大きなエアロが出しやす
くなったから、ますます盛り上
がっていく事は間違いないだろ
う。

ただ、今までのようにスポ
ーツカーを軸にしているんなチ
ューニングが展開していくのは
なくて、今後はRV、セダン、
ワゴンといった各分野のクルマ
が、横一線上に並んで盛り上が
っていくと思う。やっぱりユー
ザーの多様化もあるし、価値観
そのものが変わってきているか
ら、チューニングといえはスポ
ーツカーといった、従来通りの
考え方はなく、ウチなんかで
もセダン、ワゴン等をベースに
して、本当に楽しめるクルマを
作っていくつもり。ちなみにこ
の辺の第一弾は、人気のY33あ
たりを予定している。まあ、あ
んまりカリカリにするんじゃない
よ。

くても使えて楽しめる
クルマ。これを狙ってチューニ
ングを考えている。
もちろん従来からやっている
カリカリ系のチューニングに
も、当然今以上に力を入れ
ていく。特にR33スカイライン
に関してはGTR-Rだけではな
く、すべてのラインナップをき
つちり押えるつもりだ。
後はエアロで言う小物の類、
例えばグリルとかミラーなんて
言うのも、出来るだけそろえて
いきたい。それと、昨年車検制
度が変わって、これでいよいよ
「本物」のアフターパーツだけ
が生き残れる時代になったと思
う。だから、心算気合いを入れ
て、いろんなパーツを開発して
いくつもりだ。

ROOTS



やはりトライアルにとっては、95年オートサロンで登場したゼルダが一番ポイントになっていたようだ。価格は17インチの7MJで5万3000円〜。写真のエアロはトライフォース。こちらはフルキットで33万円である。

オバフェンカタログ

やっぱこれからのトラディショナルなエアロ
チューンはパーフェンでキマリだね!

ここで紹介しているオーバーフェンダーはすべて通常の車検ラインに載せるだけでOKというシロモノだ! 迫力をモノにしたこのフォルムを目に焼き付けてくれ!



ロケットダンサー
問い合わせ/藤村オート
☎075-381-7931
オーバーフェンダー4枚セット
4万8000円
はっきりいってお見事!
オーナーならよだれもの
の仕上がりがた。



見た新世代オーバーフェンダー!
スバルタンな印象を
与える派モノの仕上がりがた。



70年代を彷彿させる仕上が
り。シンプルさの中にも
アクセシブさを隠し持つ!

ユニオンプロダクト

問い合わせ/ユニオンプロダクト
☎03-3716-6281
オーバーフェンダー
3万5000円

KGワークス

問い合わせ/KGワークス
☎045-471-2841
オーバーフェンダー4枚セット
6万4000円



スープラのフォルムに
磨きかけたお見事な
仕上がりがた。これは絶対に
注目のパーツだ。

BOLD-SBOR

問い合わせ/アブ・フラッグ
☎03-3328-9666
オーバーフェンダー4枚セット
11万円



硬派な仕様を目指すなら
絶対にこれがお買め! 抜群の
フォルムが一際目立つ!!



マッチョフォルムの
裏いヤツ! このクルマ
はそんな言葉がよく似合う。

DOLUCK-Z32

問い合わせ/DOLUCK
☎045-942-8860
オーバーフェンダー
3万7000円

DOLUCK-Z32

問い合わせ/DOLUCK
☎045-942-8860
オーバーフェンダー
5万円

ワゴンだけでなくセダンにだって装着可能!
この仕上がりがたは絶対に見逃せ増せんぜ!



トライアル・インプレッサ
問い合わせ/トライアル
☎0722-54-9777
オーバーフェンダー
7万8000円

WISE SPORTS Y32 BRISTER KIT

フロントスポイラー	12万円
サイドスカート	10万5000円
リアスポイラー	11万5000円
上記3点セット	32万5000円
フロントフェンダーセット	12万円
リアフェンダーセット	25万円
上記2点セット	36万円
リアウイング	6万8000円

問い合わせ/
ワイズスポーツ
☎0427-40-2800



GT選手権を戦うセクセルスカイラインと
まったく同じボディキットの申請も最終設
計に入っている。



プリスターフェンダーの
作り出すラインがとても
美しい

本物だけが持つ独特の 風格が魅力! 時速250km/h オーバーを彷彿させるフォルムとは まさにコレのこと!

GT選手権で活躍しているスープラとまったく同じ仕様ということで話題になった「TRD スープラ」これも改造申請の届出が認められた車両。したがって、簡単な事務手続きで公認取得が可能なきットだ。

このクルマの場合、なによりも魅力的なことは、実際にGT選手権を戦っているクルマと寸分違わずまったく一緒ということ。メーカー直系のチューナーが作ったSPLコンプリートモデルだけに、パーツの精度は良質。強度面においてもしっかりと考え、設計されいおり、ノーマルを超える頑丈さが与えられている。グラマラスなボディから想像できるのはハイスピード且つ過激でアグレッシブな走り。クルマがSPLなら乗り手はもちろんSPLテクの持ち主と自然に思わせてくれるクルマだ。トヨタ自らが作り上げた極めつけのエアロフォルム! これから先も名車中の名車として語り継がれるに違いない。車検対応オバフェンカタログ!

メーカーならではの配慮
でフェンダーにはサイド
ビームが張っている。

